

a.市民の自立

私たちは、地域で暮らす方々の手により「まちづくり」を行い協働することにより「真に自立したまち」につながると考えます。

- 地域で暮らす方々がまちの問題を行政だけに任せるのではなく、「まち」にもっと関心を持ち「自分の問題」として考えることが必要です。
- 一昔前にあった近所付き合いや助け合い精神を持つことにより、「地域コミュニティ」を再生させることが必要です。
- 多くの人が「地域活動」に参加することにより新しいコミュニティが生まれ、まちの発展につながります。
- 「真に自立したまち」になるためには、「自助・互助・公助」の精神を持ち協働を行うことが必要です。

自助・互助・公助とは

地域のために市民一人のできることから始め、市民一人ではできないことは市民と市民・市民と企業・市民と行政が、ともに手を取り協力し合うことです。

地域コミュニティ

子どもたちを健全に育てるために、社会の仕組みとして地域・学校・家庭の連携などによる地域コミュニティが必要です。地域の大人たちから見守られているということが青少年問題の解決につながります。また、地域コミュニティの充実は、犯罪抑制や災害時の相互扶助などにもつながります。



b.強い自治体

私たちは、行政が先々を見据え財政の健全化を進める一方、特色あるまちを地域の方々とともに目指すことが「真に自立したまち」につながると考えます。

- 将来にわたって健全な財政を維持することが必要です。
- 権限を持った自治体をつくり特色あるまちになることが必要です。
- 地域の方々に目を向けた自治体運営が必要です。

健全な財政のために

今後、少子高齢化が一層進み財政的に非常に厳しい状態になります。無駄な経費を削減することが重要であります。それと同時に意味のある先行投資をしていくことも大切です。それにより多くの人に住みたいと思われるようなまちになると考えます。



特色について

自治体が特区や条例などを率先して制定し、人間市ならではの特色をつくりだすことが必要です。例えば、子育てがしやすい環境をつくり子どもの人口比率を上げることや景観条例により美しい環境をつくりだすといったことが考えられます。

合併について

私たちは、2005年までの数年間にわたり「真に自立したまち」の実現のために人間市と狭山市との行政合併による新しいまちづくりを目指して活動を展開しましたが、結果として破綻になってしまいました。しかし、人間市でも数年先には人口が減少に転じ、財政の弾力性はますます低下することが予測されており、今のままの行政運営を続けていくことは困難となってきています。私たちは、今後も合併を含めた広域まちづくりを推進することにより「夢あふれるまち」が実現すると考えます。

